



脳卒中と リハビリテーション

平成 24 年 10 月から赴任しました脳神経リハビリテーション科の藤田晃司です。よろしくお願いいたします。ご挨拶がわりに、脳卒中とリハビリテーションについてお話しします。

脳卒中というのは、大まかに言えば脳の血管が切れたり詰まったりして、急に症状がでる病気を表す言葉です。具体的には、脳梗塞と脳出血のことです。基本的に脳梗塞や小さな脳出血の治療は点滴治療を行い、大きな脳出血、くも膜下出血の場合は手術治療を行います。このような急性期の治療後に、片麻痺や失語症、感覚障害などの症状が残り、正確にはある程度の期間を経たものは「後遺症」と呼びます。一般的に治らないのが後遺症といわれています。最近では予防医学の進歩と救急医療の発達により、救命率は上がっていますが、日本での寝たきりになる原因の第一位は脳卒中です。また介護を要する疾患第一位でもあります。

(2009 年、脳卒中データバンクより)

手足の神経は末梢神経と呼びますが、それに対し脊髄や脳の神経を「中枢神経」と呼びます。事実、成人の中枢神経細胞はダメージを受けて死んでしまうと二度と再生することはないので、後遺症を残すことが多いのです。CT (頭部断層撮影) などで脳の病気の部位を定期的に見ていると、障害を受けた部分は時間が経つとポツカリ穴があいたように空洞化してしまいます (実際には水分で置き換わるので、黒く見えるだけで穴があくわけではありません)。たとえ何十年経ったとしても画像上改善することはありません。とすれば、一生懸命に訓練をしても神経細胞は増えないので、理屈上は脳機能の回復はしないことになってしまいます。



しかし、実際には、リハビリテーションにより、ある程度症状が改善する患者さんが多く見られます。筋力アップや可動域の改善以上に、脳機能が回復することがあります。

なぜか???

いろいろな説があります…



新しい神経回路ができる

ダメージを受けた周辺の脳細胞がリハビリにより刺激され、新たな回路を形成し、失われた機能を補う。

残った脳細胞が頑張る

残された細胞がリハビリにより鍛えられ、今まで以上に働く

脳細胞の働きが変わる

残された細胞が新たに別の機能を獲得する

新しい神経細胞が生まれる?

これはまだ確かめられていませんが、期待されています。

いずれにせよ、リハビリテーションによって脳細胞に刺激を与え失われたはずの脳機能が一部復活することはあります。しかし、リハでは回復が難しい症状もあります。例えば、記憶障害、集中力低下、また見当識障害など、目に見えにくい症状もあり、高次脳機能障害と呼びますが、これらに対してもリハビリ科では積極的に訓練に取り組んでいます。

今後とも宜しくお願いいたします。

脳神経リハビリテーション科

藤田 晃司 (脳神経外科専門医)

【外来診察日：金曜日 午前】

ペインクリニック外来を 受診中の患者さまへ

平成 24 年 12 月から、ペインクリニック外来の診察時間が月曜日・火曜日・金曜日の午後に変更となります。診察時間の詳細につきましては、受診時にお尋ね下さい。

ご協力の程、よろしくお願いいたします。